



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2009.9

No. 305

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



『日本鳥類目録』の現状と展望

—『Birds of East Asia』刊行を契機として—

榎本 秀和 (鴻巣市)

◇ はじめに

いささか古い話となるが、1974年、日本鳥学会により『日本鳥類目録』改訂第5版(以後「第5版」と記す)が出版された。この「第5版」では、鳥類の分類体系が、それまでのハータート Hartert の方式から、新たにウェットモア Wetmore の分類系に改められている(このことについては『しらこぼと』1999年9月号で少々述べた)。

そして、「第5版」の刊行から26年。2000年9月になって、『日本鳥類目録』改訂第6版(以後「第6版」と記す)＝下写真＝が発表されたことはまだ記憶に新しい。26年間、多くの鳥学徒が待ちに待った「第6版」だが、しかしその内容に違和感を覚えた人々もいたのではないかと思われる。

それはなぜか。

◇ 「第5版」と「第6版」の相違点

「第5版」が世に出たときは、先にも述べたように分類体系の転換という大きなエポックメイキングがあり、当時の鳥学の成果を集大成したという華々しさがあつたらう。

それに比べて「第6版」は、「第5版」の単なる踏襲に終始してしまつたのではないか。

「第6版」には、確かに「第5版」刊行以降に新たに記録された野鳥の追加があり、リュウキュウコノハズクとウチヤマセンニュウの

スプリット split (分類が見直されて、亜種が独立種に格上げされること)もあつた。

しかし、まだ多くの野鳥が「検討中」として保留されてしまつていた。ここに、何かお茶を濁されてしまつたような感じ

が強く残る。また、26年間放置しておいて、今さら「コジュケイは外来種で、亜種シベリアツメナガセキレイは認めない」はないだろう、という素朴な感情もある。

そのあたりに、一般のバードウォッチャーの中には、何か取り残されてしまったような感覚を抱いた方もいたのではないだろうか。

◇ 遺伝子に注目した分類

ところで、昨今の欧米の分類学の動向を見ると、遺伝子の比較に基づく種の判定という新しい考え方が導入されてきている。この新しい研究方法により、思いもかけぬ鳥同士が近縁とされたり、またその逆もあつたりと、分類体系の大規模な見直しが試みられているところである。

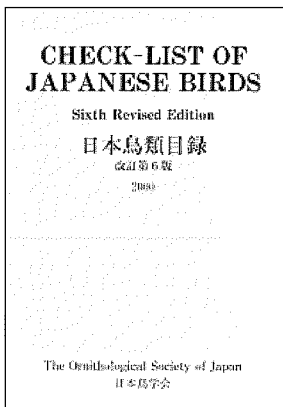
しかしながら、遺伝子に着目した種の分類方法も万能ではなく、定説として固まっていないことも事実であつて、従来の研究方法と、遺伝子を用いた方法とが相互に補完しあう形で最近の分類学は成り立っているといてよい。

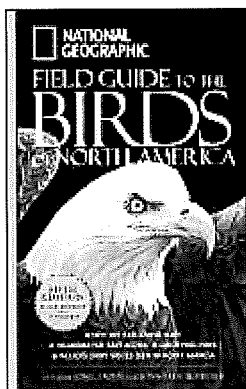
◇ 例えば米国の図鑑では

話を『日本鳥類目録』に戻すが、「第6版」が一般のバードウォッチャーを置き去りにしている、という感じは、先に述べたような欧米の最近の分類学の趨勢を反映しきっていないところにあるのではないかと私は思う。

米国の図鑑、例えば『Field Guide to the Birds of North America』(National Geographic Society 刊)は、比較的短い期間で改訂を行ない、版を重ねるたびに「種」が見直されている。

もともと米国の鳥学の立場は、動物地理学という新北区と旧北区で共通とされていた種を別種として分類する方向にあると思われ、この図鑑の2nd Edition (1987年刊)と5th Edition (2006年刊)＝次ページ上写真＝を比較すると、5thの方では、タシギ、ミユビ





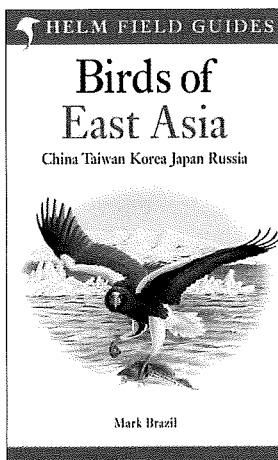
ゲラ、タヒバリ、ハギマシコ、カササギ等々みんな旧北区の種とは別種になってしまった。カナダガンも、大型のものと小型のもの（シジュウカラガン等）が別種となっている。これらの変更は、遺伝子による分類の研究がどこまで関わっているのかは知らないが、それ

にしても、常に先進の考え方を取り込み、図鑑をアップデートし続けるという柔軟な姿勢は見倣うべきものがあるであろう。

このような点において、私は、欧米の研究者が日本の野鳥を、日本の野鳥分類を、いったいどのように見ているのか、ということが非常に気になっていた。

◇ つい先日のこと

そんなおり、今年に入ってマーク・ブラジル Mark Brazil 氏が『Birds of East Asia』=右写真=という図鑑を出版された。氏は日本の野鳥にたいへん造詣の深い鳥類学者であり、私がすぐにこの図鑑を取り寄せたのはいうまでもない。



梱包を開いて図鑑の表紙を見ると、左下に魚をつかんだオオワシが、何とも珍妙なアングルで描かれている。「アングロ・サクソンの人たちの感覚は日本人にはわかんねえな」などと独り言をいいながら、ページを繰ってみる。14人の画家によるイラストも何だか私の好みではないし…、などと拾い読みしていくと、何と、この図鑑の値打ちはイラストではなかった。

何が私を驚かせ、興奮させたかというと、

それは、「種」の認識において、例えばコガモとアメリカコガモをも別種としてしまう、そんな現今の欧米式分類学の考え方が大胆に貫徹されていることだ。

ハチジョウツグミやリュウキュウキビタキ、リュウキュウサンショウクイ、オオトラツグミ、チョウセンウグイス、イシガキシジュウカラもみんな独立種になっているのだ。シベリアツメナガセキレイが独立種になっているところも、『日本鳥類目録』とは対照的である。

これでは、私のライフリストは一度に何種も増えてしまうではないか。ちなみに、分類が変わることで、自動的にライフバードが増えることをアームチェア・ティック armchair tick という。

しかしまあ、いたずらにライフバードが増えればよいというものでもないから、ここは冷静に対応しなければならぬが、最新の欧米の分類学の見解を日本の野鳥に当てはめるところなる、ということはこの図鑑ははっきり示している。

私がかねてから独立種ではないかと考えているリュウキュウオオコノハズクは、この図鑑でもそうはなっていないものの、それなりの解説が付いている。日本海側の島嶼を通過してゆく亜種の違うメジロやハギマシコについて言及されていないのが残念だが、「種」や「亜種」に関して、我が国の図鑑には見られない記述も多い。「日本」という枠組みを超え、東アジアという一回り大きな視点で著述されているということもあるだろう。

文章は平易で、『赤尾の豆単』レベルの私のプアな英語力でも何とかついてゆける。字が細かいので老眼には厳しいが、ぜひ手元に備えておきたい一冊である。

◇ おわりに

一度、外に出てみて我が身を見直す。すなわち、海外の文献によって日本の野鳥を問い直す、ということも一興ではないか。

今後、我が国で出版される図鑑や、いつかはわからないが必ず刊行されるであろう『日本鳥類目録』改訂第7版においては、このマーク・ブラジル氏の図鑑が良き先達となることを心より期待するものである。



野鳥情報

三郷市仁蔵 ◇3月20日、ペットショップの周辺でシラコバト10羽±（高田範之）。

蓮田市蓮田根ヶ谷戸公園 ◇3月17日、ウソ20羽、次々飛んできて桜の木の枝にとまった（本多己秀）。

蓮田市笹山 ◇5月7日、水田でムナグロ15羽（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 ◇5月8日、何度か雨で延期になった探鳥会下見、雨の合間にやっとできる。今年もコアジサシを確認。田植えの終わった畦で休む2羽を、更に上沼では飛翔する4羽を。毎年姿を見せてくれるコアジサシだが、この近くでの営巣は聞かない。どこから来るのかな？ 帰路は雨のサイクリングになった（田中幸男）。◇5月12日、「花王」前の田んぼで、50羽±のムナグロ、そのなかに20羽±のキアシシギが。そろそろ最後の通過か（田中幸男・和子）。

蓮田市関山 ◇5月15日午後8時頃、近くでアオバズクの声がしたので録音した（細田敦史）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇5月15日、ムクドリが口いっぱい餌をくわえて飛び去った。スズメの声が優しいと思ったら、ひょこつと2羽が重なった。5月19日、チョウゲンボウがひらひら飛んでいたところに、どこからともなくツミが現れて空中戦になった。5月21日、ホトトギスの声が屋敷林から響いた。コアジサシ2羽が西城沼で代わる代わるダイビング。桜の小枝でシジュウカラ



コアジサシ(長嶋宏之)

の巣立ち雛2羽が親に餌をねだっていた。5月26日、ハシボソガラスの先に巣立った雛1羽が餌ねだり。次男？はまだ巣の中だ。カワセミ1羽とカルガモ2羽が東城沼に。杭にモズが1羽（長嶋宏之）。

蓮田市江ヶ崎 ◇5月17日、水田のコンクリート畔でコアジサシ2羽。そこにキアシシギ2羽降り立つ（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇5月5日、アシ原南側のクヌギの木でエナガ4羽、内幼鳥2羽。親鳥は薄汚くなっていた。子育て大変そう。同じ木にセンダイムシクイ1羽、よくさえぎっていた。チョウジソウ満開。アマドコロ咲き、ジャコウアゲハ♂飛ぶ（藤原寛治）。

さいたま市岩槻区掛 ◇5月9日、ムナグロ約40羽。5月14日、ムナグロ13羽、キアシシギ1羽。珍しくハマシギ2羽（鈴木紀雄）。◇5月9日、ムナグロ20～30羽の群れを5～6ヶ所で確認。ひとつの群れの中にキアシシギ1羽（本多己秀・久文字）。

さいたま市岩槻区平林寺 ◇5月9日、ムナグロ約75羽、キアシシギ3羽。5月14日、ムナグロ19羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区平林寺・掛・本宿 ◇5月12日、平林寺・掛・本宿を探鳥。平林寺では、30羽±のムナグロ。掛では30羽±のムナグロ、その中に3羽のキアシシギ。本宿では50羽±のムナグロ、そのなかにキアシシギ5羽、加えて夏羽のハマシギ2羽を見ることができた。他にサギ6種をみる（田中幸男・和子）。

さいたま市岩槻区本町 ◇5月13日午前0時過ぎ、「ホーホー」とアオバズクの声。探してみると、住宅街の電線で鳴いていたようだったが、あつという間に普段聞かないような奇妙な声を出して、シルエットが西の方に飛び去った（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区 北緯35.9064度 東経139.7439度 ◇5月16日、キジ♂1羽、チョウゲンボウ♂1羽、ケリ4羽、アマサギ1羽、ダイサギ5羽、チュウサギ3羽、カルガモ多数（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区野孫 ◇5月18日、ダイサ

ギ1羽、チュウサギ4羽、アマサギ1羽。チュウシヤクシギ3羽が「ピピピ」と鳴きながら飛来。ケリ4羽、1羽は近くのカルガモ2羽をしきりに攻撃していた。5月19日、ケリ4羽。5月26日、ケリ2羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区高曽根 ◇5月18日、チュウシヤクシギ6羽。ケリ2羽、1羽はカラスをモビング（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区西町 ◇5月19日午後8時30分～午後9時、自宅の居間にいると窓の外でアオバズの声が断続的に聞こえた。庭に出て鳴きまねをすると返事が返ってきた。西町保育園の林に止まっていたようだ。5月20日午後9時頃、前夜同様だが短時間鳴き声が聞こえた。5月21日午後8時30分頃、短時間鳴き声が聞こえた（長野誠治）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇5月9日、子供の森でキビタキのさえずり、緑が濃くなっていて姿確認できず。センダイムシクイ、アカハラ、オオルリ、コルリのさえずり（藤原寛治）。

さいたま市桜区荒川総合運動公園周辺 ◇5月16日、農作業中のトラクターの周りにダイサギ、チュウサギ、コサギなど20羽＋、チュウシヤクシギ1羽。田植えが終わった田にカルガモ10羽。水が入った田にトウネン1羽、コチドリ1羽。アシ原でオオヨシキリがさえずって、チョウゲンボウが上空を飛んだ。草原でキジ♂2羽。他にカワセミ、モズ、ヒバリなど（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区深作 ◇5月13日、キアシシギ3羽（本多己秀・久文子）。

さいたま市緑区道祖土 ◇5月16日、5月30日、第二産業道路と近くの釣堀脇の雑木林でホオジロが繁殖している模様（小荷田行男）。

北本市北本自然公園 ◇5月4日、オオヨシキリ盛んに鳴く。ツツドリ鳴く。カイツブリ抱卵中。アオサギ1羽、シメ、シジュウカラ、メジロ。ホオジロ、ガビチョウさえずる（藤原寛治）。

北本市下石戸上 ◇5月20日午前6時30分頃、カッコウの声を聞いた（吉原俊雄）。◇5月

23日午前3時頃、アオバズク。「ホッホウ、ホッホウ」と言う声でにびっくりして目を覚ました。庭の桜の木で鳴いていると思うほどに近かった。しばらく鳴いているので、熟睡中の夫を起こして2人で声を確認した（吉原早苗・俊雄）。

川口市西新宿 ◇5月10日、センダイムシクイ3羽、エゾムシクイ1羽、キビタキ♂1羽、オオルリ♂1羽。さえずりが聞こえる方向に向かい視認した。とは言え、高い所にいることが多いので、ほとんどお腹しか見ていない（須崎聡）。

春日部市倉常 ◇5月13日、ムナグロ130羽、キアシシギ7羽（鈴木紀雄）。

吉見町 北緯36.0276度 東経139.4332度
◇5月19日、アマサギ夏羽2羽、ダイサギ3羽、セッカ、ホオアカ各3羽、オオヨシキリ、キジ（長嶋宏之）。

滑川町国营武蔵丘陵森林公園 ◇5月月19日、ツツドリの声、ホトトギスの声、カワセミ、アオサギ25羽＋、コガモ♂3羽♀2羽、カワウ多数（長嶋宏之）。

入間市彩の森公園 ◇5月19日、亜種コメボソムシクイ1羽（久保田忠資）。

渡良瀬遊水地 ◇5月23日、アシ原でコヨシキリが多くさえずる。オオヨシキリ、セッカも鳴き、ヨシゴイが飛ぶ。カッコウが何ヶ所かで鳴いている。遊水池ではコアジサシ10数羽がヒラヒラ飛んでいた（鈴木紀雄）。

桶川市若宮1丁目 ◇5月26日午前6時10分、自宅バルコニーからカッコウの鳴声を聞く。昨年は23日が初認でした（立岩恒久）。

表紙の写真

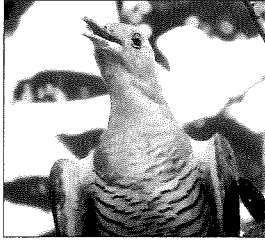
スズメ目セキレイ科ハクセキレイ属ツメナガセキレイ（亜種ツメナガセキレイ）

2年ぶりに北海道オホーツク沿岸に行ってきた。未熟な腕に加えて、心がけも悪かったせいかな天気も悪く、思った写真が撮れませんでした。とりあえず元気で行って来た証拠の写真の1枚です。

松村禎夫（さいたま市）



行事案内



ツツドリ(久保田忠資)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

リーダー研修会(要予約)

期日：9月6日(日)

午前9時30分～午後3時

(受付開始は午前9時から)

会場：北本市・埼玉県自然学習センター

交通：JR 高崎線北本駅西口から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で、「自然観察公園前」下車。

申し込み：初参加の方は往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、橋口長和

へ。8月29日締め切り。

役員・リーダーの方も電話またはメールで、必ず事前に参加申し込みを。

参加資格：探鳥会や、支部活動にリーダーとして協力できる支部会員。

ご案内：当支部は、探鳥会の運営をはじめ、すべての支部活動を、会員のボランティアで行っています。あなたの新鮮な力を支部活動に生かしてください。今日までの足跡、活動の現況、リーダーの役割などを学び、意見交換などをします。

その他：筆記用具を持参してください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月13日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当：大澤、森本、中里、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼、岡田、進士

見どころ：大麻生の空にショウドウツバメが舞う季節になりました。モズの高鳴き、足下の草花、鳴く虫、鳥と、秋色の景色を味わいにお出かけください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月19日(土) 午後3時～4時ころ

会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月20日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ：渡り鳥たちが南へと通り過ぎます。ツツドリ、コムドリ、サシバたちがしばらく休息する時間や場所は、三室地区にあるでしょうか。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月21日(月・祝)

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力を

お願いいたします。

◆大久保農耕地（さいたま市）

集合：午前9時30分大久保浄水場北西角近くの土手の上、運動公園入り口。

担当：石井智

解散は正午頃。調査のため参加費不要。雨天決行。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月21日（月・祝）

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場付近。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、1番バス乗り場から8:57発エローラ行きで「松伏高校前」下車。

担当：田邊、橋口、植平、大塚、吉岡(明)、榎本(建)、野村(弘)、野村(修)、土澤、森下、進士

見どころ：サギ6種ほどが集合しています。それに見とれて、頭上のチョウゲンボウ、ハヤブサとカラスの空中戦に気付かない失敗も、前にはありました。

その他：松伏中央公民館との共催です。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月22日（火・祝）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:10→坂戸で越生線乗り換え8:39発。または寄居7:38→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR川越線大宮7:35→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、青山、久保田、志村、杉原、高草木、高橋(優)、林、藤掛、藤澤、増尾、持丸、山田(義)

見どころ：南へ渡っていく鳥、身近な鳥、秋の草花や昆虫たちを楽しみます。

タカの渡り調査

期日：9月23日（水・祝）

半日空を眺めているだけで貴重なデータが得られます。タカ類についての知識も増えます。初めての方もお気軽にどうぞ。雨天（小

雨でも）中止。調査のため参加費は不要です。いずれも調査時間内のご都合のよいときに、調査地点にお出かけください。

◆天覧山（飯能市）

調査時間：午前8時から正午まで。近くに水洗トイレあります。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分。

担当：佐久間

◆物見山駐車場（東松山市・鳩山町）

調査時間：朝から正午すぎまで。

◆小川げんきプラザ本館屋上（小川町）

調査時間：朝から正午すぎまで。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月27日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:39発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口、星、水谷

見どころ：渡りの季節。入間川にも旅の途中で羽を休めていく鳥たちが立ち寄ります。秋の草花も探します。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月24日（土）～25日（日）

集合：24日午前9時00分、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」（東京6:52→大宮7:18→熊谷7:32→高崎7:50→長野8:43着）、または「あさま505号」（東京7:28→大宮7:52→熊谷高崎通過→長野8:53着）。

費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充まで。

担当：菱沼、藤掛、中里

見どころ：紅葉真っ盛りの戸隠を散策します。
新そば、きのこ汁の秋の味覚と、埼玉では見る機会の少ないムギマキとマミチャジナイを探す探鳥会です。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。

宮城県・伊豆沼探鳥会（要予約）

期日：10月31日(土)～11月1日(日)

集合：31日午前9時30分、JR大宮駅改札口の中、新幹線「北のりかえ口」前。(集合時間は1時間早まるかもしれません。)

交通：東北新幹線を利用。

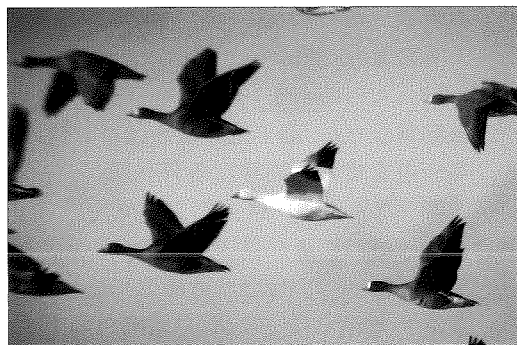
費用：4万円(1泊3食付き宿泊料、大宮～現地駅間の往復乗車料金・指定席特急料金、現地バス代、保険料など)。過不足の場合当日精算。参加人数により費用の増減があります。集合地までの交通費は各自負担。

定員：25名(先着順、当支部会員優先、最少催行人員15名)

申込み：普通はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、榎本秀和まで。

担当：榎本(秀)、長野、青木

見どころ：この秋もやっぱり伊豆沼。もちろん燕栗沼へも足を伸ばします。夕暮れ時の幻想的なねぐら入りや、暁の飛び立ちは何度見ても感激もの。万羽のマガンやヒシクイ、それに珍しいガンとの出会いにも期待します。



昨年はハクガンも見られました

サンカノゴイ、私も撮影できました

早川 満(川越市)



本誌 2009 年 8 月号で、サンカノゴイの記事を見ました。かなり貴重な種であることをあらためて認識しました。私も 4 月 30 日に北本自然観察公園でたまたま見かけ、初めて見る野鳥でしたので、近くにいた人に聞いたところ、「サンカノゴイ」とか。現れてから隠れてしまうまで短い時間でしたので、あわててシャッターを押し、何枚か撮れました。貴重な瞬間に出会えました。

思いがけない表彰状

大坂幸男(上尾市)

先日開催された第 25 回支部総会のおりに、県内鳥見ランキング「探鳥会参加回数部」で、図らずも表彰状と記念品を戴きました。まことに光栄です。私は 39 回の参加ですが、それ以上の参加回数の人がおられると思います。たまたま応募した中で私が運よく第 1 位になってしまったのだと思います。

そんなわけで、次回の鳥見ランキングには皆様も奮ってご応募され、栄冠を獲得されたいかがですか。私もまたそれなりに頑張りたいと思っています。

私が探鳥会に参加するのは、鳥を見るだけではなく、事業部の書籍等の販売をお手伝いしている関係で、参加を心がけているわけです。またこの鳥見ランキングは、以前から開催されていましたが、今回から表彰することになり、私が初受賞なので、いささか恐縮しています。



行事報告

2月11日(水、休) さいたま市 大宮市民の森

参加：79名 天気：曇

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ
オナガガモ クイナ バン オオバン キジバト
カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツ
グミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジ
ロ カシラダカ アオジ オオジュリン アトリ
カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ミヤマガ
ラス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種)

(番外：ドバト) 年に1度の探鳥会でもあり、駅から徒歩で集合場所にも来られることもあり、いつも盛況で担当者としては嬉しい悲鳴。数日前にはレンジャクもいたとの情報もあり、ウキウキしながら出発。早速アトリがみんなを出迎えてくれた。気の早いアトリには既に夏羽になっているのもいた。ジョウビタキやモズとかわいしい小鳥達を見ながら歩くと、珍鳥ではないがなかなか姿の見られないクイナも出現。途中の畑にはミヤマガラスもいてくれた。ハシボソガラスの中にいるので、初心者の方にも違いを説明しやすく、案内人としては大助かりであった。終わってみれば34種。ほとんどの見沼の小鳥たちとは出会えたのでは。ただ、タカ類がいなかったのとカモ類が少なかったのが残念。また数日前にいたレンジャクも残念だったが次回に期待しよう。(青木正俊)

2月12日(木) 戸田市 彩湖

参加：33名 天気：快晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ
ブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ オカ
ヨシガモ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ
オオバン セグロカモメ キジバト コゲラ ハ
クセキレイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ
シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ カ
ワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ ハ
シブトガラス (30種) (番外：ドバト) 朝から少々
風が強いが、気温はやや高め。池のマガモ、オオ
バンを見て湖畔へ。白波が立って先行き不安。オ

オタカを見て釣堀の林に向かう。小休止の後、林
の際でイカル1羽、シロハラ、シメ。湖畔に出て
北へ。ノスリ2羽、ハジロカイツブリ、カンムリ
カイツブリ多数。1月に続いてヨシガモに振られ
た。イカルは彩湖で159種目の初確認だった。

(倉林宗太郎)



彩湖のカンムリカイツブリ

2月14日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：35名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ コガモ
ノスリ コジュケイ カワセミ アオゲラ コゲ
ラ キセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ル
リビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウ
グイス キクイタダキ エナガ ヤマガラ シジ
ュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオ
ジ カワラヒワ イカル シメ スズメ カケス
ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) (番外：
ガビチョウ)

(喜多峻次)

2月14日(土) 所沢市 狭山湖

参加：17名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ
ブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コ
ガモ ホオジロガモ ミサゴ トビ オオタカ
キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセ
キレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ
モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シ
ロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ
シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワ
ラヒワ シメ スズメ カケス ハシブトガラス
(38種) (番外：ドバト) 林地の冬鳥は例年並みに
出揃ったものの、最盛期2月の狭山湖にカモ類が
カルガモを入れてわずか4種のみ! また、カン
ムリカイツブリの群れには早くも夏羽の個体が見
られた。この“衝撃の”記録は何を物語るののだら

う。

(石光 章)

2月15日(日) 本庄市 坂東大橋

参加：24名 天気：快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ コガモ ヨシガモ オナガガモ ミコアイサ カワアイサ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ イソシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ モズ ジョウビタキ ツグミ セッカ ホオジロ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 前日の風もおさまり春到来と思わせる好天。そちこちでヒバリがさえずり、オオタカ、そしてノスリが青空を巡回する。牧草地を通り、歩きにくい河原を横切って水辺に向かう。激減していたカモが今年はかなり戻ってきてきているのだ。早速約20羽のカワアイサが出迎えてくれて一同大喜び。小鳥がやや少なく、ゴミの不法投棄やカモを蹴散らす水上バイクには憤りを感じたが、ポカポカ陽気にも助けられまざるの探鳥会だった。(新井 巖)

2月15日(日) さいたま市 三室地区

参加：66名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ オオタカ キジ バン オオバン ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシブトガラス ハシボソガラス (41種) 斜面林で長屋門のある屋敷沿いの小道を通った。紅梅が屋根を作って、メジロが花びらに寄り添っている。カモのいる芝川も良いが、アカハラやアオジ、ウグイスが出る代用水沿いの小道も良いものだった。(楠見邦博)

2月21日(土) 東松山市 物見山

参加：38名 天気：晴

カワウ トビ オオタカ ノスリ コジュケイ キジバト アオゲラ コゲラ セグロセキレイ

ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外：ガビチョウ) 前日に降った雪はほとんど解けたが、冷え込みの厳しい朝になった。また強い北風が吹き、野鳥がどれほど出てくれるのか心配のスタートとなった。コース前半はやはり風音で野鳥の音が聞こえず、姿も見えない。入山沼に回りこんだ場所ではようやくアオゲラが出てほっとした。その後、鮮やかブルーのルリビタキ♂が出て全員が観察できた。コースとなっている市民の森が、里山保全活動の一環で藪がすっかり刈り払われてしまい、見通しは良くなった反面、野鳥の数はだいぶ減ってしまったように思う。下見のときに確認していたベニマシコやウソはとうとう姿を見せなかった。(中村豊己)

2月21日(土) 上尾市 丸山公園

参加：25名 天気：快晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ タカ科不明種 コジュケイ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 公園に入るとエナガやコゲラの混群に出会う。期待していた滝の池には小鳥がお留守でガッカリ。その後、修景池に着くとカワセミが小枝に止まってダイビング。大池にはこの公園では珍しいホシハジロ 1羽。長時間の観察となる。時間が気になり移動を促し公園を出て河川敷に向かう。途中の林ではアカゲラとシロハラをゲットしたが、土手に上つての富士山とオオタカは大外れ、それでも下見より2倍の鳥が出たので満足。(大坂幸男)

2月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：9名

新井浩、池田泰右、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、工藤洋三、志村佐治、藤掛保司

2月22日(日) 深谷市 仙元山公園

参加: 28名 天気: 晴

カワウ カルガモ キジバト コゲラ キセキレイ
ハクセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ト
ラツグミ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガ
ラ シジュウカラ メジロ アオジ アトリ カ
ワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス (23種) 絶好の探鳥日和。
滝宮神社ではアトリの群れが待っていてくれた。
ジョウビタキも間近でピコピコとご挨拶。唐沢川
合流点のカワセミはお留守だったが、代わりにキ
セキレイが迎えてくれた。仙元山では早速シロハ
ラが出てくれたが、期待のキクイタダキはもとよ
り、他の小鳥達もさっぱり姿を見せない。最後の
切り札でトラツグミが出現している山裾を回るが
見つからない。あきらめかけた時「いたっ!」の
声、全員で見ることができた。よくぞ出てくれま
した。よくぞ見つけてくれました。最後に盛り上
がってホッとした探鳥会だった。(新井 巖)

2月22日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加: 62名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ コガモ ヒドリガモ トビ クイ
ナ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キ
セキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨ
ドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ
ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジ
ロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリ
ン アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクド
リ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス
(39種) うららかな天候で前2回の天候不順のリ
ベンジを果たせた。しかし、肝心の鳥は39種とは
いえ出現種によっては2~3名での確認にとどま
るものも多く、リーダー泣かせであった。それ
でも当地ではオオタカやチョウゲンボウより珍しい
トビの飛翔や、モズの番形成、ホシゴイ(ゴイサギ
幼鳥)の枝に止まった姿などを楽しむことができた。
(長野誠治)

2月22日(日) 志木市 柳瀬川

参加: 43名 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ
オオタカ チョウゲンボウ イカルチドリ イソ

シギ タシギ セグロカモメ キジバト カワセ
ミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツ
グミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジ
ロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ シ
メ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (34種) (番外: ドバト) 旧日本ワイスレ
ダリーの工場が解体中のため、コースを変更し、
富士見橋を渡ったところで水谷たんぼ一巡し、再
度柳瀬川の土手に出て、高橋を渡ったら直ぐに、
柳瀬川右岸の桜並木を上流方向に歩き、富士見橋
の近くの河原で鳥合わせをした。心配した北風も
吹かず、暖かな晴れた探鳥日和であった。出発前
にコースの変更を参加者に説明したので混乱もな
く探鳥が楽しめた。柳瀬川の土手ではセキレイ4
種、カモ類、マンションの最上階の隅の手すりに
チョウゲンボウまで止まってくれた。参加者は水
谷たんぼで従来のコースとは違った雰囲気探鳥
が楽しめた様子であった。旧日本ワイスレダリー
の工場跡地にマンションが完成する迄はこのコ
ースを探鳥するようになると思われる。(持丸順彰)

3月1日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 35名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ コハクチョウ
カルガモ コガモ オナガガモ キンクロハジロ
トビ オオタカ チョウゲンボウ イカルチドリ
クサシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲ
ラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ モズ レンジャク属不明種 ジョウビタ
キ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒ
ワ イカル シメ アトリ スズメ ムクドリ
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (41
種) 参加者に「この目玉は?」と聞かれ、「寄居
の豊かな自然を味わってください」と答えた。目
玉の〇〇が観察できれば最高だが、のんびりと、
早春の荒川周辺を、鳥や草花を見ながら歩くのも
悪くないと思っている。実際は、「上空にオオタ
カ」「アトリとシメの群れがあそこに」「レンジャ
クには間違いないけどきかな」などと、皆さん楽
しまれたようだ。ゴール地点ではチョウジザクラ
やミヤマウグイスカグラがもう咲き出していた。
アフターではアオゲラくんがお出まし、終わって
みれば41種類の観察だった。(小池一男)



●県内鳥見ランキング表彰式—その2



支部総会に出られなかった「観察鳥種数の部」第1位の鈴木敬氏(写真右)に、7月12日(日)熊谷市大麻生探鳥会で、藤掛保司支部長(写真左)から表彰状と副賞が手渡されました。「鳥見の結果を『しらこぼと』に残せるだけで十分ですが、今回は表彰状や賞品までいただき、ありがとうございました」と、鈴木氏。

●探鳥会報告用紙などをダウンロードできるようにしました

探鳥会メインリーダーたちの便宜のため、探鳥会報告用紙と参加者名簿用紙を、支部のホームページからダウンロードできるようにしました。トップページの右下「探鳥会メインリーダーの……」をクリックすると、パスワード欄が開きます。パスワード(普及部便りをご覧ください)を打ち込み、「OK」をクリックすれば、ダウンロード画面が開きます。

●『野鳥』誌9月号は、10月号との合併号

今年度も財団本部の財源不足は続き、『野鳥』誌9月号は10月号と合併号となり、9月末に届けられます。

いつも『野鳥』誌と『しらこぼと』を同時に受け取っていた方に、8月末の9月号は、『しらこぼと』だけが届きます。

●会員数は

8月1日現在 2,147 人です。

活動と予定

7月11日(土) 8月号校正(海老原美夫・志村佐治・藤掛保司・山田義郎)。

7月13日(月) 第三種郵便物定期調査のため、「定期刊行物の発行部数及び販売状況報告書」と添付書類を郵便事業株式会社さいたま支店に提出(事務局)。

7月19日(日) 役員会(司会: 田邊八州雄、各部の報告・「渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会」団体入会について・その他)。

7月21日(火) 「支部報だけの会員」に向けて8月号を発送(海老原美夫)。

●9月の予定

9月5日(土) 編集部・普及部・研究部会。

9月12日(土) 10月号校正(午後4時から)。

9月19日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

9月20日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

8月1日現在、まだまだ毎朝カッコウの声で目が覚める。複数いることは確認できている。6月に比べ鳴き声が穏やかだ。鳴く時も尾羽を挙げてのポーズは見なくなった。(部)

暑くない夏は、山や北国の実生りが少ない秋を経て、小鳥たちが関東平野にたくさん降りて来る冬に続く……かな? 暑くない夏も、きっぱり暑い夏らしい夏も好き。だけど、渡りが始まる秋の方がもっと好き。(海)

しらこぼと 2009年9月号(第305号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。印刷 関東図書株式会社